

日本ブランド発信事業：チェコ（プラハ）、フランス（パリ）

## 【Spiritual Recycling：ぴあ RE:MEMBER プロジェクト】

～記憶・思い出を取り入れた新しい形のリサイクルモデル～

2017年6月

「日本ブランド発信事業」専門家  
ぴあ株式会社 コンテンツ・プロデュース本部  
ライブ・クリエイティブ事業局 第二グループ  
米村 修治

### ■事業概要

今回の事業では、現在ぴあ株式会社で実施している新しいリサイクルモデル「ぴあ RE:MEMBER プロジェクト」を通じた文化交流と海外でのビジネス展開を目的に、チェコ共和国（プラハ）、フランス共和国（パリ）での講演、現地建築家やデザイナー等の有識者との意見交換を行いました。「ぴあ RE:MEMBER プロジェクト」とは、老朽化したスタジアムや劇場等、「人々の記憶に残る施設」の改修、解体によって発生する「廃材」を、貴重な思い出の品として新たな商品に再生して販売するというリサイクルモデルです。商品開発において重視しているのは、その記憶や思い出を大切にする人々に喜ばれる商品とするだけでなく、中小企業や伝統工芸の職人の方々に商品製造を担ってもらう事によって、その商品を通じて、中小企業の技術力の高さや伝統工芸の素晴らしさを伝える、という事です。また、廃材を思い出の品（商品）として再生し販売する事で、本来廃棄費用がかかってしまうものが、販売による利益を得られるのです。その「本来得る事のなかった利益」を、新たな社会貢献の原資として活用できるのも、このリサイクルシステムの特徴です。今回の事業において、上記内容を現地の方々にご紹介しました。



## ■日本ブランド発信事業スケジュール

### ※6月5日（月）

- ・ 15:00～16:30 講演会 場所：ABF House（プラハ市）
- ・ 16:30～18:00 講演会レセプション 場所：ABF House（プラハ市）
- ・ 18:30～21:00 在チェコ共和国日本国大使館、嶋崎大使主催夕食会

### ※6月6日（火）

- ・ 8:30～9:00 国民劇場舞台装飾部門長 STANISLAV HRDLICKA 氏と意見交換
- ・ 9:00～10:00 国民劇場舞台装飾アトリエ視察
- ・ 10:00～11:00 国民劇場（エステート劇場）視察
- ・ 12:00～13:30 建築家、都市デザイナー OSAMU OKAMURA 氏と意見交換
- ・ 終了後フランスへ移動

### ※6月7日（水）

- ・ 11:30～12:00 在フランス日本国大使館 木寺大使表敬訪問
- ・ 14:15～16:00 ジャーナリスト GUILLAUME PITRON 氏と意見交換
- ・ 17:00～18:00 建築家田根氏と意見交換

### ※6月8日（木）

- ・ 9:30～10:30 Sismo design と意見交換
- ・ 15:00～16:30 パリ市再開発プロジェクト担当 Marion WALLER 氏と意見交換
- ・ 18:00～20:00 講演会 場所：パリ日本文化会館
- ・ 20:00～20:30 プレスインタビュー：Japan FM

### ※6月9日（金）

- ・ 11:00～12:30 Hotel de Crillon 視察

## 【チェコ共和国】

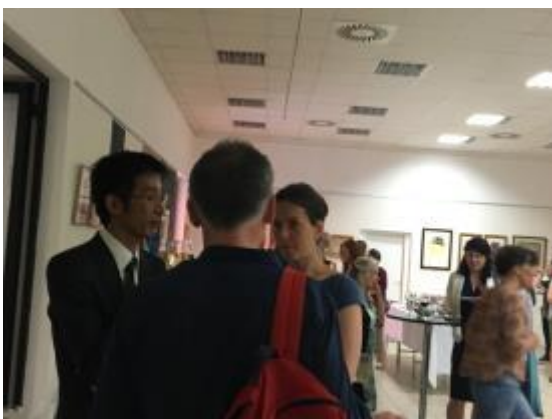
### ■講演会「Spiritual Recycling」：場所 ABF House（プラハ市）

現地のデザイン、芸術関係者、メディア関係者及び日本に理解のある一般市民の方々、約50名にご参加頂き、ぴあRE:MEMBERプロジェクトの概要をご紹介しました。主にコンセプトと今までの実施例を中心に紹介し、代表的な商品サンプル（国立競技場×カリモク家具の椅子等）の展示も行いました。講演会参加者の方々も、この新しいリサイクルシステムの仕組みに興味を持ってもらえたようで、質疑応答の中には、具体的な施設の相談もありました。また、講演会翌日以降で意見交換を行う予定の方にも参加頂いており、本プロジェクトの内容を理解したうえで意見交換を行える環境を作って頂き、非常に感謝しております。



#### ★レセプション風景

・参加者の皆様から、プロジェクト実施に向けた具体的な質問も多く、非常に有意義な意見交換ができました。



## ■在チェコ共和国日本国大使館 嶋崎大使主催夕食会（場所 大使公邸）

嶋崎在チェコ日本大使のお招きを受け、チェコナショナルギャラリー東洋アジア部門部長のマルケータ・ハノーヴァー氏、同日本展示キュレーターのヤナ・リンドヴァー氏と共に大使公邸にお伺いしました。日本、そしてチェコの文化について、嶋崎大使の前赴任地で実施されたイベントについてのお話など、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。



## ■国民劇場舞台装飾部門長 STANISLAV HRDLICKA 氏と意見交換、アトリエ見学、国民劇場（エステート劇場）視察

昨日の ABF House で実施された講演会にも参加して頂いた、国民劇場舞台装飾部門長 Stanislav 氏と意見交換を行い、国民劇場で開催されているオペラ等の公演において、その舞台を彩る装飾部門の仕事内容や装飾を製作する際の手法や技術をレクチャーして頂きました。ぴあ RE:MEMBER プロジェクトにおいても、舞台装飾関係は商品の素材として取扱うケースが多く、その製作手法や技術を実際の現場見学を通じて学ぶ事は、今後の商品企画において大変役立つものでした。



### ★エステート劇場視察

・ヨーロッパで最も美しい劇場の一つであるプラハエステート劇場を視察させていただきました。



た。その美しさと歴史的価値に感銘を受けると共に、ぴあ RE:MEMBER プロジェクトを実施するのであれば、その歴史的価値を損なわないような商品設計が必要だと感じました。



### ■ 建築家 OSAMU OKAMURA 氏と意見交換（場所 カフェルーブル）

2014 年東欧地域の新しい挑戦者 100 人の 1 人に選ばれた、建築家、都市デザイナーの Osamu Okamura 氏と意見交換を行いました。ぴあ RE:MEMBER プロジェクトの概要について事前に理解して頂いたこともあり、非常に有意義な意見交換となりました。建築家、都市デザイナーという観点での本プロジェクトのあり方など、違った視点での考え方が非常に興味深いものでした。また、Okamura 氏も知っていた国立霞ヶ丘競技場についての実施例を話したところ、高い関心を持って頂けたようでしたので、日本から持参したサンプル商品をお礼の品として贈呈致しました。



## 【フランス共和国】

### ■在フランス日本国大使館 木寺大使 表敬訪問 (在フランス日本大使館)

在フランス日本大使館、木寺大使に表敬訪問させて頂き、今回のフランスで実施させて頂く日本ブランド発信事業の内容をご説明しました。学生時代にイベント会場でアルバイトされた経験やその施設に対する思い出のお話などをお聞かせ頂き、ぴあ RE:MEMBER プロジェクトの意義を再確認しました。快くご面会頂き、誠にありがとうございました。

### ■ジャーナリスト Guillaume Pitron 氏との意見交換 (場所 在フランス日本大使館)

ぴあ RE:MEMBER プロジェクトに興味を持って頂いたジャーナリストの Guillaume 氏と意見交換を行いました。人々の記憶や思い出に注目したリサイクルシステムであることに興味を持って頂いたようで、その仕組みやビジネスモデル、海外で実施した場合のサポート体制など、かなり具体的な意見交換ができました。案件としては、パリのサッカーチーム、パリサンジェルマン FC の本拠地、パルク・デ・フランスを想定しての意見交換でした。

### ■建築家 田根氏との意見交換 (場所 田根氏事務所)

フランス・パリを拠点に活動されている日本の建築家である田根氏と意見交換を行いました。建造物に対する日本と海外の考え方の違い（解体文化と改修文化）等、建築家ならではの意見をお聞かせ頂きました。

### ■Sismo Design との意見交換 (場所 Sismo 本社)

ヨーロッパを代表するデザイングループである Sismo の代表である Antoine 氏と意見交換を行いました。ぴあ RE:MEMBER プロジェクトで廃材を商品化し、販売を成功させるために非常に重要な要素の一つに、「デザイン」があります。そのデザインの持つ力を通じて、その商品の持つ背景や意義を伝えることなど、ぴあ RE:MEMBER プロジェクトで最も重視している部分について意見交換を行い、共感できた事は非常に大きな収穫でした。同社は日本の伝統工芸品のヨーロッパ向けデザインも手がけており、その意義とデザインの考え方に大きな感銘を受けました。



## ■パリ市再開発プロジェクト担当 Marion Waller 氏と意見交換（場所 パリ市役所）

パリ市再開発プロジェクトの担当者、Marion Waller 氏と意見交換し、主にパリ市再開発プロジェクトのコンセプトをお聞きしました。特筆すべきは、再開発プロジェクト案件の選定の基準とその不動産価値の算定方法です。市有地を中心に開発計画を公募し、人類学者や数学者など、建築家以外の専門家も審査員として参加しているようです。また、その開発計画の内容によって、市有地の払い下げ価格が変動する、という面白いシステムでした。歴史的価値のある建物に関しても、一定の条件を定めた開発計画を推進するなど、歴史的建築物を保護しながらイノベーションを目指す、という非常に理想的な考え方で再開発を行っている事に感銘しました。再開発から発生する廃材に関しても、十分にぴあ RE:MEMBER プロジェクトの対象となるため、今後の開発状況に注目していこうと考えております。



## ■講演会「Le《RE:MEMBER PROJECT》－《RECYCLAGESPIRITUEL》」 &プレスインタビュー（場所 日本文化会館）

パリ日本文化会館にて、デザイン関係者、美術館・劇場関係者、プレス・出版関係者、学生等を対象に、びあ RE:MEMBER プロジェクトの概要説明と、今まで実施したプロジェクトの商品の展示を行いました。国立競技場の椅子を日本の老舗木工家具メーカーとコラボしてリメイクした作品に関しては、その椅子の高さを実際の競技場と同じ高さにするなど、商品に対するこだわりの部分とその必要性を説明したところ、十分に理解して頂けたと思います。また、質問の中には、この商品はどこで買えるのか、海外でも買う事ができるのか、といったものもあり、対象となる案件によっては、十分に海外での販売も可能であると感じました。講演会にはデザイナーの方も参加されており、実際にコラボレーションを希望して頂ける方もいました。





## ■Hotel de Crillon 視察（場所 Hotel de Crillon）

大改装により 2013 年から閉鎖していたヨーロッパを代表するホテルである、ホテル・デ・クリオンの改装現場を視察させて頂きました。通常、改装中のホテル内は絶対に視察できないのですが、RE:MEMBER プロジェクトの主旨に賛同して頂いた、Senior Sales Manager の Nidale Barret 氏の特別な計らいで視察させて頂きました。本当に貴重な体験をありがとうございました。（写真撮影は NG でしたので、改装後の素晴らしいホテル内風景は、オープン後にご自身でご確認下さい）

ホテル内には、歴史的価値の高い装飾品が数多く存在しており、その修復方法や保存方法、新しいデザインと造作物との融合方法など、本当に勉強になるものばかりでした。本プロジェクトの可能性についてもお話させて頂き、十分可能性がある事を確認致しました。この度、非常に貴重な体験をご提供頂いた、Nidale 氏に心より感謝致します。



## ■おわりに

人々の記憶や思い出に注目した新しいリサイクルモデル、ぴあ RE:MEMBER プロジェクトの内容を、チェコ共和国、フランス共和国という歴史的建造物が数多く存在する地域で説明させて頂きました。廃材を思い出の品にリメイクする際、元の素材（廃材）以外の素材も追加して商品化している事例もあり、完全なリサイクルとは言えないという指摘もありましたが、このプロジェクト自体が「人々にリサイクルの重要性と可能性」を啓蒙するツールであると理解して欲しいと説明したところ、多くの方々にご賛同頂きました。人々の記憶や思い出は大切なものであり、その大切な思いを後世に遺す一つの手法として、中小企業の活性化や伝統工芸の保全活動、新たな社会貢献の原資としての利益を活用する手段としての RE:MEMBER プロジェクト、チェコ共和国とフランス共和国でも実施できれ

ば嬉しく思います。

最後になりましたが、事前準備や現地でのアテンドなどで大変お世話になりました、外務省ご担当者の皆様に心より御礼申し上げます。

【参考リンク】

外務省日本ブランド発信事業：

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/p\\_pd/pds/page22\\_001100.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html)

ぴあ株式会社：

<http://corporate.pia.jp/>

ぴあ RE:MEMBER プロジェクト：

<http://t.pia.jp/pia/event/event.do?eventBundleCd=c1601086>